

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

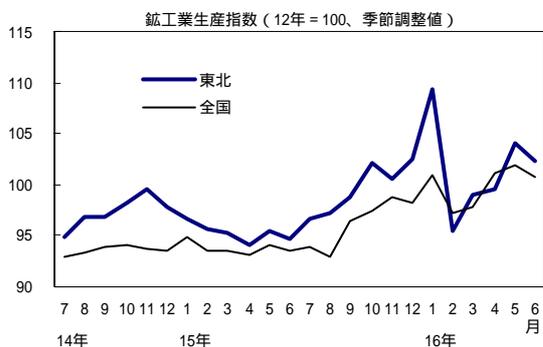
- ・ 鉱工業生産は基調として増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点
なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は基調として増加している。

電子部品・デバイスは、集積回路などが高水準で横ばいとなり、引き続き携帯電話やデジタル家電向け半導体が上昇したことから、増加している。食料品・たばこは、酒類が低下したものの、冷凍水産食品などの水産製品や果実缶詰などの果実製品が上昇したことから、増加している。情報通信機械は、法人向けが好調な電子計算機が上昇したものの、モデルチェンジ端境期の携帯電話・PHSなどの通信機械や、カーナビなどの民生用電子機械が低下したことから、減少している。一般機械は、運搬機械などで動きが見られたが、金型が高水準ながら前期の反動で低下したことから、減少している。電気機械は、民生用電気機械と産業用電気機械がともに上昇し、電気計測器なども上昇したことから、増加している。



(備考) 平成16年6月の東北は速報値。

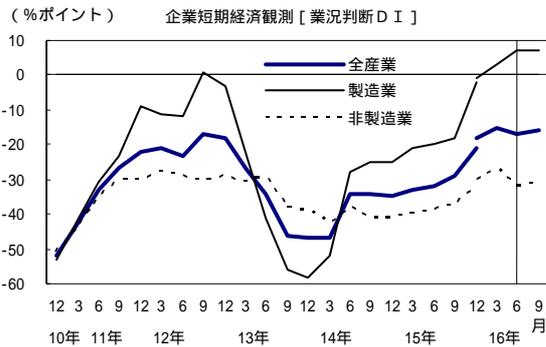
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	19.3	2.8	0.5	3.7	8.4
食料品・たばこ	12.9	5.6	12.4	4.4	10.9
情報通信機械	11.6	15.5	4.4	6.2	42.6
一般機械	8.6	16.5	9.1	5.1	32.3
電気機械	5.8	5.8	6.1	6.3	4.8
鉱工業	100.0	0.5	0.7	0.3	7.1

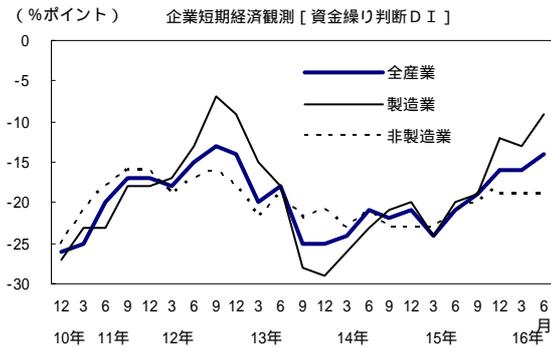
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

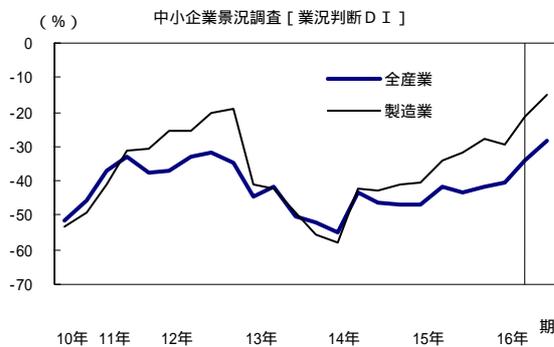
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「自動車部品は、一部メーカーの減産の影響を受けてはいるが、生産高は依然高水準で推移している。3か月前と比べるとさほど変化のないレベルである (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

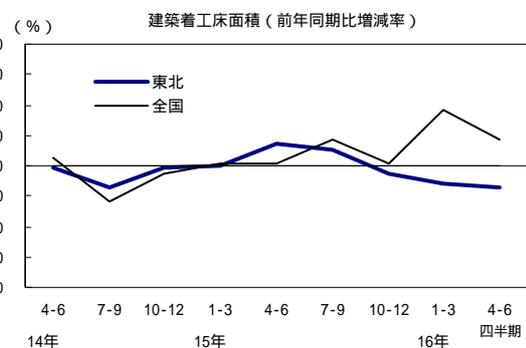
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	20.8(1.8)	30.6(26.5)
製造業	20.3(1.5)	74.5(47.2)
非製造業	21.2(2.0)	6.6(3.4)

(備考)()は前回 (3月) 調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

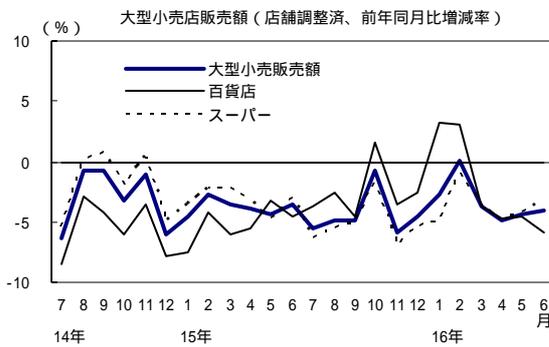
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月はブランド品や旅行用品などの身の回り品が伸びたものの、天候不順で初夏物衣料品が鈍かったことなどから、前年を下回った。5月も身の回り品が好調であったものの、他は総じて不調で、前年を下回った。6月は衣料品におけるバーゲン前の買い控えなどにより、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の7月の売上高は、前年同月比で1.5%減となっている。

スーパーは、既存店ベースでは前年を下回り続けているものの、全店ベースでは飲食料品が堅調に推移し、6月値では前年を上回った。

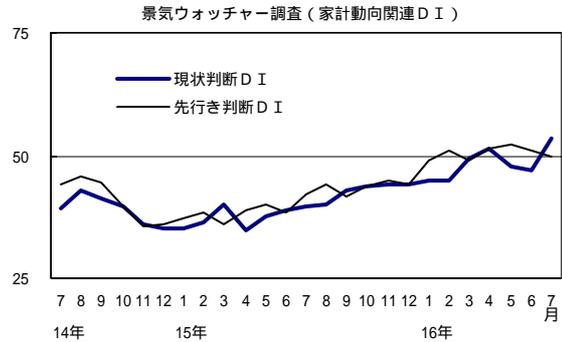
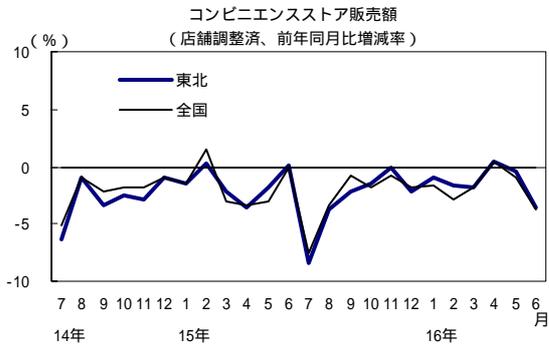
景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「夏のクリアランスセールは昨年の冷夏に対しての猛暑の効果なのか、ボーナスサンデーを含む1週目は好調に推移し、その貯金もあり月トータルで前年をクリアできそうであるが、持続性はあまり感じられない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	5.1	3.8	2.3	4.4
百貨店	3.7	1.7	0.5	5.0
スーパー	5.6	4.7	3.3	4.1
コンビニ	4.9	1.2	1.5	1.2
景気ウォッチャー	40.9	43.9	46.4	48.8

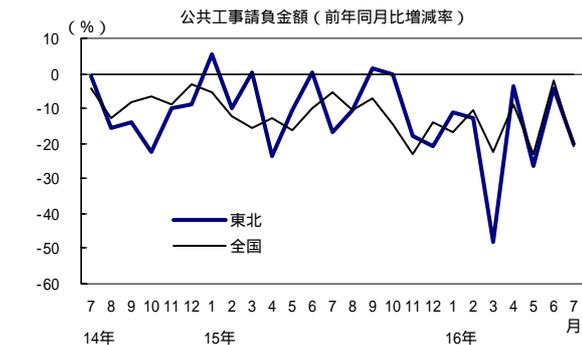
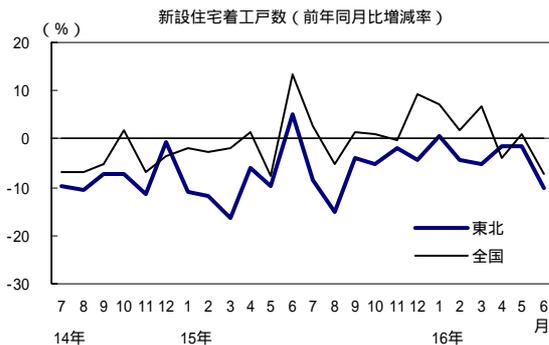
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

主に持家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

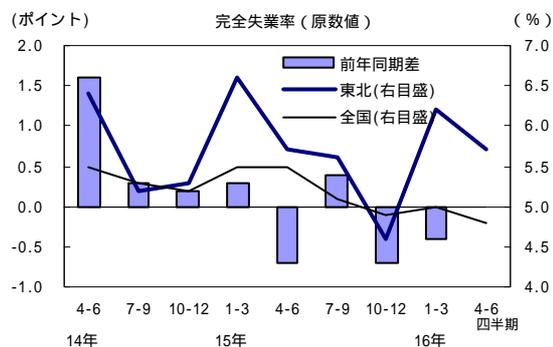
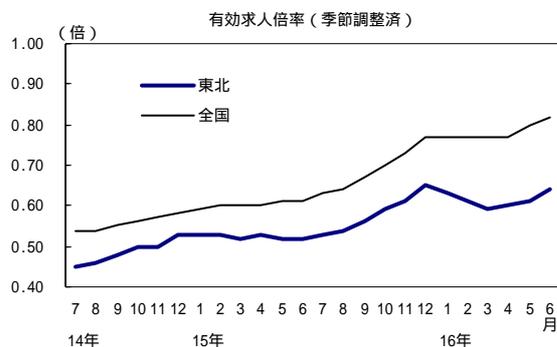


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

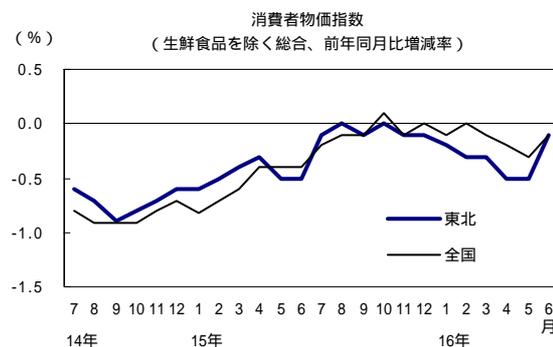
「通信系企業の動きがかなり活発化しており、複数単位の派遣依頼が続いている企業があり、活気が出てきている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「東京、大阪等の進出企業からの申込は増えたが、地元採用は去年より1割くらい下回っている(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	291	230	244	244	77
(前年比)	20.5	39.0	25.8	20.5	8.3
負債総額	1,379	749	801	1,070	131
(前年比)	7.6	64.3	48.1	29.2	52.9



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・中小企業の店でも来客数が増えてきており、少しは景気も上向いている(住関連専門店)

<先行き>

・8月以降、秋口になっても採用者の動きや相談めいたものが入る気配がある。多少ではあるが活発に推移しそうである(人材派遣会社)

